



岩松小学校だより



学校だより 第14号

令和8年7月3日発行

発行者 校長 真子靖弘

変わりゆく入試制度とこれからの学力

これからの時代を生き抜くために必要な学力として、文部科学省は「資質・能力の三つの柱」を示しています。それは、生きて働く「知識・技能」、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力」、自ら社会と関わる「学びに向かう力・人間性」です。こうした学力の変化に伴い、大学や高校の入試制度も大きく様変わりしています。

例えば大学入試では、今や入学者の半数が総合型や学校推薦型選抜で進学しています。一般入試や共通テストでも単純な暗記問題は激減し、グラフや統計データ、対話文など、複数の資料を読み解いて最適解を導き出す問題が主流となっています。高い情報処理能力と読解力が求められているのです。

また、佐賀県の公立高校入試も、2028年度の入試（現在の中学2年生）から大きく変わります。

■前期検査（2月上旬／定員の80～100%を募集）

・学校ごとに3つの方式から選んで実施

- ①5教科の学力検査、面接、調査書等
- ②3教科（国数英）＋自己表現（作文、口頭試問、プレゼン、集団討論などから高校が指定）等
- ③3教科（国数英：各25分）＋実技検査、面接等



■後期検査（2月下旬）

- ・前期で定員に達しなかった場合に、作文、面接、調査書、前期選抜の学力検査（国数英）等で選抜

※前期・後期とも、基本的に1日で実施。

「小学生にはまだ先の話」と思われるかもしれませんが、決して無関係ではありません。入試の変化は、そのまま「これからの社会で求められる力」の変化そのものだからです。

本校での日々の授業も、単なる知識の詰め込みではなく、読み解く力（リーディングスキル）を育むとともに、子どもたちが自ら「問い」を考え、判断、表現する学びへと大きくシフトしています。未来を見据え、今必要な力をしっかりと育ていけるよう、今後も保護者の皆様と共に歩んでまいります。

各学年の「専門家に学ぶ」特別授業！

本校では、子どもたちの興味・関心を広げ、深い理解へつなげるために、各学年で工夫を凝らした教育課程を展開しています。最近では、特に地域の「専門家に学ぶ」授業が数多く行われています。

- ・3年生（福祉）：福祉の専門家を招き、バリアフリーの街づくりを学んだり、車椅子や障害者スポーツ「ボッチャ」、手話の体験を行ったりしました。
- ・4年生（歴史）：村岡総本舗の社長様から、地域の誇りである「シュガーロード」の歴史についてお話を伺ったり、羊羹資料館を訪問したりしました。
- ・5年生（環境）：水生生物・水質環境の専門家から、ホテルや川の生き物の生態、高度な水質検査（ph、BOD）の手法を直接伝授していただきました。

授業後の子どもたちの感想からは、第一線で活躍する専門家だからこそその言葉の重みや、本物に触れたインパクトがひしひしと伝わってきます。こうした貴重な体験と教室での座学が結びつくことで、子どもたちは「本物の学び」にどんどん夢中になっていきます。



さて、ここで5年生の学びに関連して、楽しい「ほたるクイズ」です！ 保護者の皆様は何問正解できるでしょうか？

【第1問】：岩松校区にいるホテルは、ゲンジボタル、

ヘイケボタルと、あと何ボタル？



【第2問】：高いところを飛び回っているのは、

ゲンジボタルの「オス」それとも「メス」？

【第3問】：ゲンジボタルの幼虫は、1年間で約何匹のカワニナ（エサ）を食べる？

※正解は、5,6年生に尋ねられてください(^^)

絆を深める「わんぱくタイム」！

6/18(木)、わんぱくタイム（縦割り班活動）を行いました。へびのようなラインを一緒に引くことから始め、いざ蛇じゃんけん対決へ。下級生を優しくリードする上学年の姿がかっこよく、皆で大盛り上がりでした。

